



活語指南

二

服部文庫
イ17
453
/



117
453
1

義門師脱稿
重民翁補成

活語指南 二冊



此書と詞八衢の平しき筋と好不しきしきと
手爾表波乃大ぬやのる趣とことしきしきと
凡そ御國詞はるるしきと難くんとあらん人の必
よと給へるに書也 三都書林 合梓

然らるまごかこなりぬう。ここよ
みちしひてんや。いふあるうなるお子と
もけ事ていあやう。おやひ見勢たまひ
し。和語説略とつまのた。まはら
らぬ免古への詞乃格を。うたまへあ
らまん料なれども。うひ字のふた

歌書を初より初学の後のむろけえんはあつちふかきく
 言ひん柳とておとと暗圖演説のやまをくくしてそれ
 一説分をも補ひあつちるあんあ井氏の心入れのあつち
 有りたれハ文章多あつちあつちよりけりふさけり一なること
 たりとておけり信ひことくくハあつちり一をうくあつち
 かりやうくくくえせ心よりけりけりむけの信云く大くけり
 一物一くくえけりあつち又板くあつちあつちあつちあつち
 のけりけりけりあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

活語指南序

歌よみ文よむ後ハ更ハあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 惣言世ハ有じ何もけりあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 形多あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 形くあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 いまあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 何もあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

散ハちらちやちるちれト云活キ略図去字標セル行ノ用言

ツイデニ云、此才四句ヲ遠ク、レク
ザワクナド釈クハカナヒカタシ

○久望のひくものときまきの日はあつふかき花のちるらん

詞通路ニ云、次ノ詞ヘノミカ、ル」ソノ詞て、ををノ句コ

ヘダテ、ム子トカ、ル」カコミタルハ枕詞、花のト云詞、ヘダテ

テちるヘツック、此通路ト云書合セ考テ可、但レ
日ユ花のちるトカケテミルハ更ニ補テツ

○まもとゆか着城山ノ海ゆきのまき、時た、たもやゆるま

此ハ時多くラヘダテ、おもやゆるニツク、
此ハ直ニおもやゆるニツク

志 截断

截断言

○こころあはばさぐびやあらぬ桜花みもそれさくまのころあ

此様ニ早ウチルクラ井ナラバ、イツソサカズニアルガエイノニナセ咲イタ

サカヌガテシダヤニ見ル我、デユツタリトシヅカナ心ナレト云ヒキ
ツタノナレバ、ちハ截断言、

○系やとえ雲ありしそそたもあ、
截断

コレハ三ノ句ニテキレタリ、

○をらゝのこんとありせま門さそ形、も、答へてあはざりまを

コレハ形ト截断シタルヲト受テ答へト云用ヘ又イヒツバ
ケタリ、答ハ答へ、答ふ、答ふる、答ふれ、答へ、ト云活用ニテ、

畧図ナル経、字ラ答、字ニカヘテニベキ詞、又な、ト云、ト云ニテ受

ルコアリ、トハモト截断言ヲ受ル、辞ニハアラス、サルニヨツテ答し

ト清、ト深、トナド云ルコハナキニ、尔ル処コノち、トニツキ

○^{古クニ}

まゝのふるはちまゝさうさうむちるを惜まぬ人ーをけんた

自然言 自然ヲ受ル

櫻ノ散ルヲ惜テ又人ハちまゝバ。まゝのふるハ。世間ノ人ノ花ヲ

惜ミテ泣涙ガ知ラヌト也。なけまハナイノ決定シテスンデラル

也。此才二句ノカラ哉トイヒ。又

ちりト云ニ同シトイヘル説ハ非。

○^{千載十七}

なせの中よるこそなるれ。あひいるふのたぐもも麻ぞかゝるる

右已然言トウブニハイハル、詞ガこそノムスビトナリテハ截断言ト

云ベクナルト。スベテそのや何ノ結ビほヒ。こそノ結ビトイヘル

うれ 希求

上ニ云ル如ク世ニ下知言ト云。友鏡ニ使令ソレヲ又略図ニハ希求ノ言ト云ル。物デモ事デモコヒ子ガヒモトムル詞ニ。サテ袂くくきぢりきノニノ形状言ノ用キハ。希求ニツカフキハ羅行ノ変格。ニテキル、四段、活キトナレ、バ、コ、ノ云様イカニツマ覚ユ伝人モアランカソレガタメニ略図ノ図ニヤウ心シテアリ。氣ヲツケ見ヨ。横豎正スチノ通ル通ラヌクアヒラ。

○^{万葉四}

これもねりあひもちまゝんおほあわうらあぐうせのやむもくまうれ

外諸人ノ考ヘモアレドソレヲノ議論ハ此書ノム子トアラヌトナレ

バ都テコ、ニハハブク。哥ノ意ハ浦ニハツ子ニ風ノ吹モノチヤガ。其浦

吹風ノ如ク我モ思フソナタモコチノヲ忘レズニ。絶エズ思ヒ止時

な。くれトコヒ子ガヒ求ムル。な。くれノクハくあノ約リタルニテ。止

時まゝあれ。く。ニ有ノソハリタル。友鏡ニ有。此五段ヘオ一オ

ニノ兩段ノ詞ボヲ皆トリ来テらりるまト用ラカシムルベシ

トアルコレ。畧図オ一行ニテハ。無。ヲをう。オ二行ニテハ

正。一。ヲ。を。う。ヲ。等。ニ。サテ右一首ハフルキ処デ出。テ。ミ。セン

正。一。ヲ。を。う。ヲ。等。ニ。サテ右一首ハフルキ処デ出。テ。ミ。セン

タメ万葉ヲ引之。尔ニ此同ジ類ヒライトノ近クテ例メサバ。

○分まよふ煙のうちにもあざよりあのみもさのつがあらん

此一首ハ今世モ同様用フル言ト云フラシラセン料ニ近來ノ

哥ヲ奉テミスルニ。此近來ノト云哥ハ天明八年ノ事カトヨ京

大火ニテ御所ヘモ火カ、リケルニ西洞院殿

風月のさみトカソノコロ
哥ニイト名高ウメハセシ君

ノヨトセ玉ヘルトナン〇煙ノ中ニ君ノ行幸ノツ、ガナカレト思フガ

ヨトコヒ子ガヒタテヘルニ。

右ノ歌四方硯
ト云ルモノニ見ユ。

ツイデニ云。上ニアゲタル万葉集ナルハ笠女郎贈大伴宿祢家

持歌之。又後撰集雜四

たいしらす

かきくさこのみち

○我もあふ人もあふるを『ありそ海の浦あく風のやむ時もある』

此ハあふ。ヨリ上へ返テ思ふあふるをト云用言ヘカ、ルニ。

あふハ連
用言ニ。又六帖ニ

○君もあへ我もあふれどつらそ海の浦あく風の止まざるもあふ

コレモ下ノあふ。ヨリあへあふれどヘカヘルニ。浦吹風のノのハの

あふト云意ニ。連用言ラ一首ノラハリニオキテ上へ及ル

意詞ノ哥少カラス。玉緒線分ニ詳カニ。

右將然連用截断連躰已然希求六ツノ分レテ。皆タツノ無

ノ文字ヲ奉テ示シタリ。此類若くはあふれナドイトノ夥

レ。底のうげニ集ヘテアリ。推テ知ベシ。次ノオニニテハ種々ノ文

字ヲコレカレト交ヘテ出シミスベシ。コレヲ一隅ヲミテ三隅ヲ知

ル意用ヒニテ意息得ベキトゾ。

右ハ無清明ナドノ活キサノツ子ノ雅俗氏ニ
タクサンニ用フ定例ニコレヲマタ日本紀ニ

詞苑九

○あゝくれとあゝぬ山のさねだよむあなるものを人のたげきハ

千載十二

○うくりける人をさつ漱のふおろしよをげし。くれとハ初くぬおを

右希求言ヲトト受テツゞケタリ。心オノツカラ明ニテ童蒙ト

イヘドゲニ希求言ト知ベシ。但シ此処ニツ念ヲ入テ論シオク

ヘキコアリ。あゝくれとげし。くれナドれモジ即希求ナル

通例ナレド。又よヲ添フルコトモ時々アリ。カノ四段ノ活キノけ

せてへめれコレニハよヲソヘヌコトノミモよヲ添フル事時々アルト同

例ニ。小大君集ニ長くれよあゝぬのうこのたまむきふちまうとみ

れあゝくれをりけし。へし。あゝくれといもさハなるくあらどと

やあやちく君うめよハさゆらん。コレ贈答ノウチニテ一首ハ長

くれ。一首ハ長くれ。よトアルカ。凡ニ意ハ全ク同キニテ知ベシ。此畧

図オニノ希求言ハ図ノ如ク。れ文字タゞニ希求ナレド。下タハ

よヲ添テモツカフコト。其処下デハアラハシエ又ガ畧セル図ナレ

バノコヅ。カハルコト凡ナホ意ヲ逆ヘシヨ。

△第三

コレハ株ニテ過去ヲカタル辞ユエ。已然言コト云ヘル処ハヨクワカルレド。將然言コト云ル処ハ初学或ハ誦ラン。此各ノ終リニオ四十七四十八ノ人め

將然

け

古ハ
○あゝくれとあゝぬ山のさねだよむあなるものを人のたげきハ

古今遠鏡ニ云。コレ世間ノ衆知テ居ラル。テモアラウカ。モシ知ラシ

ヤラズバ今ワシカ云テキカスヲ聞テナリ。凡此世ヲバ早ウステサ

絶ズ流レテヨドンダノナイ此飛鳥川ノヨドミタラシ様ニオレガ
モシサレツカヘデモ有ッテ通ハヌツガアツタラナンゾ心ニシナノアル
ヤウニカノ人が思ウデカナアラウ。

連用言けりトウクルハ
三ナ連用

○^{五六} ^隼 ^{淵門} ^磐 ^{年魚} ^奴 ^尚 ^{不及} ^家 ^里
や人のせいのいもちもあゆまの芳路の流よなほあくるり

○^{月八} 梅花折毛不折毛見都禮杼母今夜能花爾尚不如家利

コレハ折リヌもをくべヌも為つれどもニテ見トイフ用言連
ク。バナルルシルシ。ルリモ固ヨリらり。れト用ク言ソレヘズ

ヨリ連ケル。此折リハルモをくべハルモ。坎処ハ用
言ヲ躰言ニシテヌルニハヘキニハ非

おぢ 截断

「截断言

○^{古五} 子子振袂代もさくば 立田川くくれまわうあくるとも

立田川ニ紅葉ノ流レルハトント紅葉鹿子紅レボリト見エル。此様
ニ川ノ水ヲ紅レボリニシタト云フハ神代ニモキカヌツヤト上
ヘカヘリキレスワレルぞ。

「截断言トト受テズケタリ

○^{月二} 花のよハまゝよこめてうせぞ。も香をさくねまめまのひを

ぬ 連躰

「連躰言山ト云躰言へツケリ

○^{月三} ましうてどむも白もぬ。おちもくわうくわうくわうくわうくわ

春ニナツテモ花モナイ山中ノ里デハ。ナニモハリアヒガナサニ鳴キト
モナサウナ声ヲレテ鶯ガナク。おろろろろト云ハイヤサウニ鳴
キトモナサウナ声ニナクト云フニタウキハフニトケル打関ノ解
ナドハ宜シカラヌ趣キ。遠鏡ヤ玉霰ナル辨論ニテ意得ベキトニ。

古三 〇長しもむひぞとそね の連躰ナレトキルハ上ノぞニカレルカラニ 〇むうよりきこふ人の秋の長きれば

杯 已然

已然言ナレドこそトカ、リテ截タル改色見えハハニ四ノ極下ナレ
ル。但シ此哥ノナドハ至こそちくめノ、類ニテ色ハ雖不所
見ハヒソニ対ノ香ハ頭ハナハキニ

古三 〇妻の長の家えあやなう梅のむとこそそるん 〇香の屋ハかくらう

春ノ夜ノ闇ト云モノハワケノ夕、又物ナヤ、梅ノ花ガ暗ウテ色乞

見エ子、香ガカクレルカ、香ハ隠レハセヌ、カクレルテモナレカクレヌ

テモナレドチラヒワケノ夕、ヌヤミヂヤ、

古六 〇遠坂ののらりの風をさむりれどあへあふね 〇むむびつぞぬる

〇月をいぢちうと物さうれいれあふひらの秋ははらぬ 〇ど

〇君がゆくらの白心まふね 〇むむのまふく法をさづねん

右三首已然言ヲむどもト受テツクケタリ、サテツイテニイフ、

古今秋のうらもそね 〇ぬこノ意

ナル多シハヘル、詞玉緒三ハ七ニニエタル、ゲニ然ル、然レヒ

コレヲ此杯ノミニテ意ウベキニハアラズ、諸活用言オレワタリ

テ已然言ヲむトウケタル詞、何レモ連躰言ヲト受ルニ

似通ヘルアルハ都テノ例ニ、其趣玉緒線分ニ了々トニエタリ、ツ

レヲ考ヘミルベシ、

拾玉 ざん

希求 希求ノ片ハ、活用轉ジテ羅行四段ノ形状言ノ例トナル、ナレノ約ナレバ、

〇あふせむやとあふ人のさうせなて、あらざん 〇たりふ人の

志 連用

新古今十三 〇このまじのゆくまきそはうとたれはらふを跟りの命ともう那

○^古ふをば山のさくらうりまうせんとらん連躰言ヲバト受ハむのまじり

コレヲラモテヤハリ志ノ連躰言ニテモアルヲ知レト云タシ抑

右ノ哥ハ幽仙法師ノニテハ山のむをばてぬりまうてあせんと

ふをばらついでよよめらトアリ御別レ申ハキツウ御残念ナ

ガ云テ拙僧ガ方トメ申シタトテトアリハナサルトイコレハ此山ノ

櫻ニ任テトメウモトメイ花シダイニ致サウヨモヤ花ヲフリ

モギツテハエカヘリハナサルトイト云ナレハコトバトハ連躰言ナ

ルコレルベシ次上ニ示セルキルノト對ヘシベシあるしらぬあやち

花のさくらナドノるぬト同キ語勢ノまけんともナル故連躰言ナル必セリサレバコソむトウクナレツイテニ云後料あり処ハ

ありまがらえあまうくりける人コつうりらる亦金くくて

葉哥

もえぞはま。さひ星の細谷川のふをばさ。右等ノハ

ま。ノト。ニテ略図ガ二行正字標セル志有志有志有ノ活キ

テうれ。うき。因。いみ。ノル井ニ。此四有む有ね有ノ活キ

テハナイニ混フルコト大氏人ノセヌコナレド童蒙ノタメカクテ

ヘタ念ヲ入置ムゲニてコはシラ又徒ハ將然ヲ受ルマ。ト截断ヲ受ルマ。トナ

取チガヘテ油ルジキマ。ラ油テ而シテ雅ノト。トニ意得ゾリ。

△第五

ら 將然

○^古云藩のひいりよけん幸ふもあはる人有も有じ有と有思へた

コレハ伊勢ノ哥ニテなうひらの朝臣あひまうてけりらるを

くれうまうりにりれバちぶやまのうみよけりらるを

將然言

まうらうとてよまてつうまうらうらうトアリ。歌ノ意ハ京ニ居テモ
 面白クナイニ依テ大和へ下リテスガ云わの山むまゝくを
 試ひまませト古哥ニヨンデ有様ニ今カラアノ方デ恋シイ人
 う待タトテモ何年タツト誰モ尋テ來テクレル人モアルトイ
 ト存ジテスレバドウシテ待チオセテ逢レテセウカイナ。巨へ
 ルナレバあらどハ未然ヲ云ルあらニテト受タルヲシルシ
 都テんノトノナド受ルハ皆將然言ナル大方ノ定リニ畧四ノ
 ナル受ル辞
 ヨク三べシ
 〇直びねハ刃をうきまの根を絶てさそふあり有。ばいあんとぞそふ
 〇百二妹がおもつぎてみまををまくある大母のね有家もあら有まを

〇百一天ハハハ八十ありいつくハまみりハふハねををハまををハらん
 居ラモ右ノ如クハまハんナトニテ受ルハ將然也。タハシ
 有リ居リノニハ全ク同活トハ云モノハモトハ然リるハノ四段ニ
 シテオハ二音ハ文字ヲ截ルハ言トスルハ有ハノハ居字ニ當ル
 詞ハ本和行一段ノ活キナルヲソノみハみハれト用ク用言ハラ
 居有ト形状言ニスルソレバ音ヲ轉ジテをト云ルニテコレハ
 さハありハラハまハありハラハナドノ類ヒニサレドソノサハ異
 ナル様ニ思ハルハカラニ。紐鏡ハ衝ナドニモ有居ノニハくハへルニ
 从ヒテ。此書ニモシバラク有居ノ二語ノ例トハ出ス。

一云妹イモ之ガ當ア繼リ而モ見ル武爾ム 一云家イヘ居ラ麻マ之ノ乎カ

水鏡欽明天皇條

〇めの女云野干コぬりて居垣のうへへのありてをり。男先をみて云

閑居友上

〇んの中のまさけりなとたひひを居。コレラハヤ、後ノ居ナレドモ、ラキル、言トセテ古ニナナヘリ、ハ、

有リノリノキル、詞ナルコハ、俗言モ全ラ同シケレド、をりハ、

言トスベキ様ニモ思ヒテガフベキニ似タリ。サレド右ふやけをりノ如

ク、都テマ、ラキル言トスルハ上ニモ云ル如ク、をりハ本居あり

切ツレルナレハナホ活指雑話ニコノイト古クテマ、ラキル、言トセルヲ証セ

バ、古事記白檮原官ノ段ニ、比登佐波尔、岐伊理袁理、比登佐

波尔、伊理袁理登母云ナド尚アリ。コハ人多來入居人多雖

入居ナリ、キル、詞イリマナルコカク古クヨリノ、ニテ閑居友ナレドトク

近古テデ同シト、抑有り。とトハイヘド有るもトハ云ヌ二同

ク、居リモ居るともトハ云ヌ又例ナルヲ、ムゲノ近キ世ニハ誤リ用ヘル

人少カラス万葉十六四幡幢爾居ノ居ヲリトアル古点コソヨキニ、近人コレヲサテ序

ニ云シ、友鏡ニ此五段へ上ノオ一オ二ノ兩段ノ詞カ取來テらり

るレト活カシ見ルベシトアルハ、下フオ一ノニテイハバ

〇長ク、らんふもあゝゞハ有長ク、あらんふもあゝゞ也

〇むも紅葉もあゝゞりハ有むも紅葉もあゝゞり也

〇羨ヨみ、くバ近ク、きハ有羨ヨみ、くバ近ク、ありき也

〇女帝を多ク、申へハ有たほく、ある、申へハ也

〇その中よ、及こそあ、れハ有及こそあ、れ也

〇いくの、及の、あ、れハ有あ、れ也

浦吹風の止時をうんハ やむ時をうんハ也

万葉二ノ長歌ノ中ニ 天下所知食世者春花之貴在等云

ルモたふとくあらんとニカ様ニオノく アリカダコト

悉クコへ來タシウツシニベシ然ルキハ此オ五ノ活キノ語夥シキ

トニオ二ノあゝあ あきモ同シトベ

いつまきとそらあらんハ あらん也

君があをうらざりハ をうらざり也

ちよおをうんハ うんハ也

まげしんハ まげしんハ也

余リ證ヲ引出サンモクダノ、レクウルサケレバ、將然言連用言

ノ次オモナク必レバカリラコ、ニハ挙タリ、此類オシテシルベシ。

●形状言ハ、物ノアリ様ヲアラハス詞也 言語四種論ノ名

る 連躰

〇朔あくくろ河旁のえよのえうきをかりひのある世ありり 有

毎朝タツ川ノ霧ノ浮テアルヤウニ、イツモ、落付カ又思ヒノアル

世デヤサテモ、

〇君をのゝあひらぐぢのあゝ山ハいつハ雪のさゆるときある 有

〇みさごあるまゝなる船の夕燈をまららんよりたゞこれこそまらぬ 有

〇枕よりあまよりこひのせあられむせんうゝるまぞ、床なうゝなる 居

〇よの中ニある人トコぞうげきものあらむ 居

連躰言ハ世ハ躰言ニツツケリ

いつかトカ、リテ截断トナルハモト連躰言ナルスベテノ例

トカ、リテ截断トナル

居

○^律後ちくちよとのまの明わのふんあれ。ちくちよをねりふくち

○^古あしらの碓もあし碓をつむめ。ぬるまを沖をれ。浪

あし沖よけき浪と云説モアレドソハイハユル詞ノ活キニ疎キ説

之折ハ下ニ段ニモ四段ニモ活ク詞ナルヲ。礼文字ヲ希求ニスル

ハ四段ノ方ナレバサテハ沖ニ返ヘルニ叶ハズ又浪ニ命シテ何物

ヲカ折レト云フヤハアルベキ浪ニタツチニ折レテアレト命スル

ナランニハをれよトよ文字添テ乞云ベキナレサテ又源氏帚

木ニさうりともあこたをさぐ子よをあれよトアルナドヨリフト

思へばよ文字添テ希求ニセルカラハ。礼ハ下ニ段ノ用ラキ返ベ

キニ似タレド然ラズオ四音ヲ其終希求トスルガツツノ定

△第六

リナガラ、稀々ハソレニヨラ添テモ猶希求トスルヲモナキニシモ
アラザルニ思ヒテガフルヲ勿レ。詞ハちまゝニハコノ細論ナケレドツハ大方ノ
定リヲ略ヤカニ云ルニコソ。玉緒タリ分ラニヨ。

せむたけめ

巴下ハれヲ希求ニセルハマツハ無キ歟。らノ將然ハカ
けらハ慥ニ覺ユレドけらナドハ思出テズ。マラ連用
ニセルモラサノ、ナレサレドコレハ元來有りヨリ出テタル
詞ビナレバ。コトワリハカハルヲナレ。タマノ、珠ラカニ例証
アミエタルハ出シオク。ナホ心ツケテミナ人補ヒモノセヨ。又
希求ニハノ有無ノ論をれ。これノ処合考。又其せれノ下ヲモ。
解シモカヌメリ。或ハ九ニノ三領シテ古訓ノ味ヲ知サランモ憾ムベキワサ。

せら

將然

せと

連用

○^互トヒコあひて朝極まきなぐり。うけをきいもがいありせり。らん
暮 相 而 隠 尔如氣 妹 廬 利 為 里

連用言故んと受ル

廿七 截断

○この殿えうべもとみりきねのころむらむふ殿つくりせり。

此せりハ都テ躰言ニ付テ其躰言ヲ用言ニキカレムルトキノ辞ニテ。

為有ノ約詞此次ニ引万三ノ文字殿つくりせりナドハつくりハモト用言

ナレド。彼本ヨリノ用言ヲつくりたり。つくりたり。ナド受ルキトハチガ

ヒ。今ハ其用言ノ連用言ヲハつくりは名目ニレ所謂躰言ニナレ畢

テ後其ヲ受ル辞カレユ故ニ廿七ハ躰言ヲ用言ニ令聞ル辞ト云。歌ノ

意ハ此御殿ハナル程御繁昌ナラゲヤ。御殿々々ノツバ、ガ段々ト三

モ四ツモツバイテサテノ結構ナ御普請カキムノ句ハ枕詞。

○久堅乃天歸月乎網爾刺我大王者蓋爾為有ヒサカクノアメユクツキヲツナニサレワガオホキミハキヌカサニセリ。截断言

せる 連躰

○雪ふればあこりせる。草も木もまよこまよこ花ぞさねたる

冬枯テマダ芽モテ又草木モ。雪ガフレバ春ニハサタナレノ花ガサイ

タワヤほニテ。コモリ為有ル草ト躰言ヘ連ケル。

○あふとちまよおせる。あはかろ強くまよきまよき物よぞあくる

せれ 已然

○あふとちまよおせる。あはかろ強くまよきまよき物よぞあくる

一本家ありを。れ。バトアルモヨレサレド今ハ一本ニヨリテコ、ノ

例ニレバラク出シオクサテせ。ハ為有ノツバマリナルト上ニモ

云ル如クナル。尚云ハハモレ然ラバせ。ト希求ニイヘル有ヤ。又

又貫之集。我篇のおちり。ながくトアルモ。ながくハスベテ連用
言ヲ受ル格ナルヲ思フベシ。

上ナル將然言モ此連用言モ。射言ヨリ直ニツバケテ。君あら。射。將然受

君あ。射。連用受。射。連用受。君あ。射。連用受。君あ。射。連用受。君あ。射。連用受。

言ニテハ截断ヲ受ル。ト連射ヲ受ル。トニッアリ。截断

ち。は。ハアレ。ト云キニアリ。声ガスルワアレ。連射言ヲ

受ル。ハコレ此通りソレ其通りナト、ワケライヒ述ルキミ

アリ。此連射言マタバチニ射言ヤヲ受ル。ハ本にあノ約リナリ。

●又此連用言ノあ。マ。ケ。マ。は。ニ。至。テ。ハ。イ。ヨ。ノ。講。釈。レ。テ。聞。ス。ル。様

ノ意ハヘシ。ヨテ十二八九ハ上ニ。文字アリ。凡のくけ。る。あ。ら。う。

み。む。ナ。ニ。ゾ。ナ。レ。バ。ソ。レ。ノ。其。通。リ。ニ。エ。ナ。ガ。レ。テ。ハ。イ。カ。ズ。ニ。シ。ガ。ラ。ミ
ノ様ニヨドム紅葉ヂヤ。は。コ。デ。ち。り。り。は。類。皆。推。テ。知。ベシ。

○ま。ま。毎。ま。む。の。さ。く。り。と。あ。ま。あ。め。ど。ひ。ん。こ。し。の。ち。あ。り。り

○む。さ。そ。ふ。鼠。の。を。の。雪。あ。ら。り。ゆ。り。の。ハ。我。才。あ。り。り

む。文字ノナキハ。

〇^五 洞河な。み。を。る。ね。ん。物。あ。ら。り。の。あ。ら。り。り

ナドコレモ少カラ子ド。る。ね。ん。ノ。ツ。ギ。ニ。ナ。ニ。モ。三。ナ。カ。ミ。ヲ。尋。ル

テハナカツタニ。コノ河ノ。ト云ヘル意フクメレバ言外ニ。文

字ハ含メリ。伊勢物語ナル。つ。の。山。へ。の。ウ。タ。ナ。ト。モ。其。哥。ノ。前

ニ詞ノアリテ。かく旅の。う。ま。む。つ。に。も。ま。む。人。の。あ。ら。り。り

乃ウ伝へル意ナルタグヒスベテ考へニツベシ

通本人ニトテレド塗筆本のトアルが優ウケ新釈ニナレ共ノ如シ

ちる 截断

○^古秋の野人まろむのまをちる。まろむをいざとちるま

秋ノ野ニアレク人ヲツト云名ノ松虫ノ声ガスルワオレヲ待

○^古カト云エドレヤ行テトクト事ノ様ウ尋子タサウ。コノ截断言ヲ受ル者ハコノ

約リトハイヒガクシ少異アル歟サレド上ノカカリぞのヤ何ナドこそトはもナドノ三ノカマリニテ結語ノ薄ズル例ハ曰キ歟コノコトハ玉緒線分ノ上卷ニテ考スレ

○^古我度そんやのそんをむむ世をむむ人といふなり

いふト云詞ハ四段ノ活キニテハ連躰モカヌレド。坎哥ノナドハ截断ノ方ニテソレヲありトウケタルニ。ワカ庵室ハ京カラ辰巳ノカタ遠カラ又宇治山ト云処ダヤ。外ノ人ハ京近キ故ニ猶世ノウキコノ

アル山チヤト云。チヤガ拙僧ハコレちんそ通リテ年久シウ住テ居ルコレ

此トホリニ。

コノ人モソムありハ連躰言ヲ受テノナラム巨ニアルニ付テ尚細論アリ活雜四編ニ詳ニスルヲ見テ明メテヨ

○^古序詞。ころよるるをそる抱きくりのよつけていひ出せるなり。

いひ出せるハ連躰言ニサレドめりらんまどありナド何レモ有字ニアタル語ヲ受ルキハ必連躰言ニツク辞トナレルコト上ニ既ニコトワレルガ如シサテソノせるヲ受タルありハ截断言オノツカラレルシ。コノ外にちるあり。ちるあり。ナド本ヨリツク詞ヲ受ルをモ此詞ニアリテ截断スル処ハマナルコト亦オノツカラ明ニ。

ちる 連躰

○^古天の原よりさけられ春日ある。こひさのやまふいさく月くも

〇まゝさて交さるるらしきろ妙の衣かき。乾有天之香未

後於ハイカイ

〇菊の香のあつるおひらくはあつるハむちり。とよけはあつり

右何レモてありノ約リノうへ。外ニとありノ約リノうへ

リ五轉ノ活用ノ様ハ異ルナシ。但シ其とりりノうへハ雅文ニ

ハラサノ、ミエズサレドレニモナシトハ云一ジキ歟。漢籍訓ノ瑟今偶

假名唇モヤ、降テノ物ニ福田^ニへしニニ因縁^ニべき

松^ニト沙石^ニニ云ル如キイト多シ必ソノ原ツク処アラシ趣

たる 連射

ナホ次ノ下ニ云へシ。

〇女師むらうしめりも又あるはわれ。あつるむらうたてれ

アノ女郎花ハ、女アレタ宿ニ見レバ人モツカズニタツタ一人居レ

バサテモアキツカイナ物カナ。

〇吹くせを吹くてうらみよ堂を吹くや。さつるうらみよあれ。る

たれ

已然

〇厚

たもたぬ。あれの雨もあつた。天雲を吹くつらさやけし

序ニ云万十二。悪木山木末悉明日従者靡有社。妹之當將見。此有

タルト読ルハ聞エ直レ。ト訓テ希求トシレハ終ノ將見モ聞易ク思ハ

ル。女ヨリミレバ上來。せかたけめノ活ノれハ希求ニセル例ハ欠レカド。然

ノ三モ定難キ歟。但シ件ノ社ハ告社。飲み乞ナド。多ハ連用言ヲ受テ願意ナルレド。又ハ

テヤハリ希求ノナラント思フ。且若此。湖。ニくらほのさうぞくさな。むい。ひと

れみ。ろおほせをさす。れどの。トアル。んハ正ク希求ト聞ユ。湖ナラ

ハせをさす。ト三エタルハ仰置而。湖ノハ仰扱テ。〇サテ又女た。ハ歌文ナ

又ニお

ルハ而有ノ約^{テアル}ノ三ト思ハレカノ漢籍訓ニ瑟^{シツタリ}今ナド様ニ云ル^{〇〇}あり
ノ約^リハ雅文ニハ見當ラヌ様ナレド。古事記傳九七ニ任ノ解説云云然ル意ニテ今此
辞ヲ用^テハンモ憚^レベキニハ非^レ歟。靖日印本ノ衣云云。あられハ五日乃あう月ニせうと
を人ハよりきて此レ等モシコレナラム手。

けら 將然

將然言ヲ受ル

〇^{万五}うめのむ^{ウメ}さ^{ウメ}その^{ウメ}ま^{ウメ}折^{ウメ}え^{ウメ}うづ^{ウメ}う^{ウメ}ま^{ウメ}な^{ウメ}く^{ウメ}あり^{ウメ}ユ^{ウメ}ク^{ウメ}さ^{ウメ}や^{ウメ}
うづ^{ウメ}う^{ウメ}す^{ウメ}べ^{ウメ}く^{ウメ}ハ花^{ウメ}デモ柳^{ウメ}デモ頭^{ウメ}ニサ^{ウメ}ス様^{ウメ}ニ^{ウメ}ハ^{ウメ}フ^{ウメ}デ^{ウメ}柳^{ウメ}モ青^{ウメ}ヤト色^{ウメ}付^{ウメ}テ慰^{ウメ}

家良受夜

戲^ニ頭^リリニサ^ス様^ニ成^タヂ^マナイ^カト^ニけ^ハハ彼^ヲ為^シ有^ラセ^リ
ノ類^ノ漕^用ニ^テカ^ヅラ^ニス^ベク^ナリ^ニ來^有ス^ヤ。キアラけ^ハハ彼^ヲ為^シ有^ラセ^リ
ノ類^ノ漕^用ニ^テカ^ヅラ^ニス^ベク^ナリ^ニ來^有ス^ヤ。キアラけ^ハハ彼^ヲ為^シ有^ラセ^リ

漕音シテ

けり

連用

けり何ト連用言ニナレルハ未^ニズ玉^緒三^{和泉式部物語}こちり^きとい^へる
詞^{あり}く^トアル^今思^フニ^コレ^けハ^ハき^ハ用^言へ^連ケ^ルニ^ハキ^カ。

けり

截断

〇^古の^内よ^きを^ます^まり^り。一^年成^てぞ^とや^いえ^んあ^らじ^いえ^ん
年内ニ春^ガ來^タ夕^ニ一^年ヲ^マ物^ウえ。オ三ノハ雨ふれど春もりじをナドをニテおをノ意ニ
松屋翁新釈ノ解佳シ遠鏡ノ訳モ正義ノ辨モ不可也

ける

連射

連射言故りちト受ルニ
畧圖ノ左右熟察セヨ

〇^古さ^ほの^さそ^のさ^そを^らん^ど秋^ハあ^らじ^いえ^んあ^らじ^いえ^ん

此サホ山ノ柞^モ色^ハ薄^テ深^ハナ^ケレ^ドアノ氣^色ヲ見^レバ^扱て^ア

秋^ハイ^カウ^深成^タテ^哉心^ヲ望^ミて^冬を^淋し^き増^りける^{ナド}ぞ

ト掛^テ截^{タル}又^ヤ何^ト掛^ル甚^夥ク^又う^づり^{ける}人^をを^らせ^ナ

ドシカト射^ヘツ^ラナ^レル^例夥^シ

けき

已然

〇古一こころさう流くそあそくをうらね。巴然言エ衣ト受ル。巴ハハカノ誤字は説ニ从シモ巴然ノ格ニ背クナレ。

〇古六雷ありて年のうねる時こそ。そつひよりみぢぬまのいもえらん。

〇めら 將然 乱るべしちん等ノズル此めりノ活ハヘキ心チモスレド。リリノリノナドヲクナリ
たうちり等ズレト絶チナク。又ズルヲチぬん等受タルトモナレ。尚考フベシ。

〇めり 連用

〇小大君集 さがのまゝ風やまらんとありしをふみこの君よ人のかきり

〇源氏蜻蛉卷ニモ おをのこえはかり
あうどナホ此類ラリ、見コ。

〇き 志 志うハ一ノ用言ナルヲ。其志うへマヨリ連ケリ。源氏桐壺

〇 卷。人けさるき恥をうくしつす。むらひあふめりつるを人のま。

一本コノリツ
ノニ字ナケレド コレモ連用ニ。

〇めり 截断 ・ 此めりニ必截断言ヲ受ル。有るは詞ヲ受ルキバカリ連躰ヲ。

〇めり ハ。活語雜話ニ編 卅五 ノノ辨論アル如ク。詮ハ見えかりノ約リハ

〇ル 説。ゲニサ様ナルベシ。但レ目ニ視ルニカキラズ。俗ニ心ニ考ヘオモハル、コトヲ
云ハシエルト云ルニ同ク様子ヲ云ニ。畧図ノ如ク有るノ外ハ

〇 截断言ヲ受ルハコレ即ミ見えかりノ証ニ。截断言ニテッ其ノヲ

〇 云テ。次ニヌ也又エト云ト例多シ。いざりせり。月うらる。

〇 月ころころ。ナド少カラズ。土佐日記ナルカノてる月の流る。これヲ
トドヨリイヘハ。連躰言ノ方ニテ月ころころ

〇レク 研究スヘキナリ。但レコノハ別ニクハ

〇立 立田川紅紫を流る。涙らハ。ささるやたえらん

〇 立田川ハモミチガチリ乱レテ今最中流レル。然シエアルト心ニ考

〇 へテサテ。ソレデハ今渡ツタナラハアツタラ錦ガ。ン中カラキレル

けら

將然

此けハ加行四段ノ活才四音ニハ衛上十三。四段ノ活才四ノ音けせて
へめ。礼ヨリらりる。ま。ト活クハヘルコレ。但シハちまこニハさけらじ
さく。ナドハウクニジユトアレド。サ受タルモ例アル。せら
て。へ。め。き。各々其処ニ出ラ見ベシ。

互

〇

長き世を暮らさつゝいづらむバさうてちりに。花あまうを
不生者 有益乎

後拾六

〇

いづらむむハ生き有ランヨリハノ意ニ。玉緒七。及縁分下記傳
廿七。熟ク覽ベシ。

〇

ねね

ねねちまのねね名のいづくまねれ。ちま。大沢のいけら。ドやせ。

けり

連用

古詞

〇

水のほとり。梅の花さ。り。る。をよめる。

互

〇

つくづね。こく。や。り。せ。を。霍公鳥。ひ。こ。と。う。め。る。う。や。そ。ん

けり

截断

互

〇

秋のぬいさける。秋。秋。秋。く。せ。ま。び。ける。よ。秋。の。つ。ゆ。お。け。り。

六帖

〇

糸せこハさませりけら。我布の。ま。も。ち。び。り。あ。も。ち。り。り。

ける

連躰

互

〇

秋野。雨。さ。ける。秋。芽。子。秋。風。ル。ち。ひ。ける。う。へ。秋。露。置。有

古亭

〇

いさ。い。る。お。い。づ。れ。う。を。よ。ま。さ。り。ける

〇

けり

已然

互

〇

浪波。さ。る。人。の。ゆ。り。ん。む。た。れ。あ。て。若。菜。採。こ。を。え。る。が。な。り。さ

互

〇

さ。く。さ。り。し。花。も。さ。け。さ。ど。や。ま。を。ま。み。云。こ

互

〇

不。用。有。之。佐。家。礼。村。山。乎。茂。

△

第八

〇

せら

將然

〇

〇

〇

〇天の川移るる世良むをへをい後ららんを秋あむども
 〇霍公鳥うひとほせらむ今年経てらん及もまづあむらんを

〔せり〕 連用

〇庭のうさぎせりける枝のひ葉もどあうりけるを

〇さぐせこハ未ませりけらうか箱の云

けるモけらうモ活語ナレハソレヘツグケルモ文字ハイツモ連用

言ナル例ニ

〔せり〕 截断

〇いもう為いのちのこせり。くりこものたひひみされてあぬへき物を
 〇うき世ハ門させり。もええあむにまどうさう方のいさぐさよまる

〔せる〕 連射

〇ふあてうおらむやをらん初まの郵まどをせる。あむきくのむ

〇いせの海ノ年ノすす。あまなればいつれの藤うけくきのこせる。

いつれの藤うけニカリテ截断トナレルハモトハ連射言ナレハナリ。

〔せれ〕 已然

〇久しうれあむ。教あむさうむうめうさせれ。どうらひよけり

〇八隅知之云天つちもろりてあれこそいさうの云ううえを

かせれ。そをうらむ云。已然言ナルユエ上ノよりてあれこそう受テソノムスビ
 トナレルナリ。但シ万葉ニ上ニコレナクテヤハリ斯様ナルモアリ。

此哥ノあれこそハあれむこそノむらハズケルニテ集中例多シ

ト畧解ニトケルハゲニレカル。然ルニ同唇ニコノウへをさせれ

ヲモ例ノ流せれむノむノ畧ケルコトバニトケルハ恐クハフト釈キア
ヤレルナルヘシ畧解作者カバカリノヲ誤ルベキ人ニハアラ子ト
詞ノ活キ様ヲコトカニセザルユエカハルモノゾコナヒハイデ來ニケラシ
ソモ詞ノ活キト云フツ子ニコロラツケズハアルベカラザルコトワリ
コレニツキテモ思フベシ

△第九

てら

將然

〇^{拾遺十七}たぐひしたてら。きりふあささこぐねおもいよハ紅葉してまじ

てて

連用

〇^{古詞}やまのめらぬまうりける時さばひよあかのたてりたるをみて

てて

截断

〇^{古詞}女師むろしとみつぞゆきまづをよこひうたてりとおもへむ

手落洲したてり。ナドキレタルイト、多レ。

てる

連射

〇^{古詞}葉はむのもよにて人の人まをる。うをよめる

〇^{古十七}うくしつををやつてさん言ゆの屋とよたてる。ねあらなく小

てん

已然

〇^{古四}ををちへしうしろめさるもえゆるはまらるやとく独りたてれ。た

〇^目あごちりく名よこそたてれ。椽花来すまれある人もまらるり

サテ坎てれト次ノへれトノ間ニ移れ巨が入リヌベキカヤハリ

古
○花ちきる。あのみまじくとあらればふしはまもなくありユク
日序
○あま雲くぬまびくまうたひのちきる。

如くハモト。くちきト活ク形状言ニテ。易ク難キナド。日活ナルニ連用言ハ受ケズレテ
連射言ヲ受ル別例諸書ニ夥ク三エ。又ツ子ニ貴賤一曰都鄙一般ニイヒナレ居ナガ
ラ。コレハカハリタルコトフト気ノツカズニスニテアルモラカシカニカクニ如クト云フ
詞ヘイヒツケルハイツモ連射言トコ、ロウベレ。コハ必ヨ、ニテ云ベキコニモアラ子ド。
フト思出タルト、ニ云ニ。以言ノツカヒサテノクハシキコハ活雜三編ノ系ニテシルベシツノ
大カタハ畧図ニテ諸活語ノ連射言ヲ受ルてコをえ、ヤウヲ考ヘトホサバ曉ラ
レスベク。ナホ近クハ常々ノ物イヒブリラ気ツツケテナルホトハシレヨカシ。サテ連
射言ヲ受テ如トツケルモ其カ。ナレニイヘルモ意ニカハリメナシ。雅俗凡サ様ニ。

れま

已然

土佐目キ

○ひとりもつへーせむあつべき人もまじきど。
梅の花それもええげえこのほまじがる雪のあつてぬれ。

友鏡

△十三段ハ 畧図 第二十一段ニツニアリ

△十四段ハ 同 第十七段ニツニアリ

右ノ第七ヨリオ十二テノ將然言

ケ○いげらむむハ いきあむむをナリ
セ○梅もせむむハ 梅もあむむをナリ
テ○たてらまうむハ たちあむむをナリ
へ○たぐへらめやもハ たぐひあらめやもナリ
メ○よむめらむハ よむみあらむをナリ
レ○ごまねらむハ ごまなりあむむをナリ

其餘ハオシテシルベク。地躰有ト同格ナルトモトヨリトシル
 ベシ。サテ之ガ已然言モ准シテ。也々れ^ニ「さ々れ」ハ。也々れ
 を^ニ「あれ」ト^レ乃至^キ「れ」ト^レ「あれ」ハ。新^ク有^キ「れ」^ト降
 在^ル「^レナル」例知スヘシ。カクテソノ^レ「あれ」ハ。モト希求ニテモア
 ル^トハ^ハサ^ハナ^レハ。此^レ也^レ「れ」させ^レ「てれ」自^レ「れ」ナドモ然ルヘ
 キ^ニ理^ルリ^ハ。カ^ノ居^有レ^ルノ^レ約^リトオボシ^キガ。沖^コを^レ「浪」ト^ニエ
 タルト同シ^ト「^レサレハコソ」万十五^ト「あささう」ハ。マ^ガ母^をと^ん
 忘^ル貝^を寄^セ来^テ於^テ家^ニ禮^ハき^つ「^レ浪」ト^ステ^ニエ^テモ^アチ
 シ。然^レモ^レサ^ヤウ^ニツ^カヘ^ルラ^ハ数^々ハ^ハ覚^エザ^ルガ^レ故^ニ。右^ニ々^々示
 シ^ハ置^ザリ^シト^レ知^ベシ。

